

学校便り

やさか

合い言葉「超升先輩」



2025年4月18日
中津川市立坂下中学校
「自立・共生・創造」
生徒数134人

いにしへの 奈良の都の しだれ桜 けふも「やさか」に にほいぬるかな

4月1日、学校にお客様がいらっしゃいました。「坂下中学校のしだれ桜を久しぶりに見たい。」と、わざわざ奈良県からお越しく下さいました。坂下中学校の校庭のしだれ桜を植樹して下さった方々のお一人で、奈良県薬師寺 長藤 松久保秀胤様です。桜についてお話を伺うことができましたので、紹介させていただきます。



戦時中（昭和19年9月頃）、政令によって中学4年生以上の生徒は、軍需工場に緊急動員を命じられました。奈良県立郡山中学校から名古屋市内工場に配属されましたが、名古屋大空襲のために工場疎開となり、坂下町に分散移動し、工場建設に従事していました。戦争は激しくなりましたが、坂下町という静かで穏やかな町で、昭和19年12月から翌年2月まで、恵那山の白嶺を公民館から眺めながら、戦争の厳しさを深く考える日々が続きました。私は、「海軍兵学校」を受験する決意を抱き、学友3人と英語を内緒で熱心に学びました。

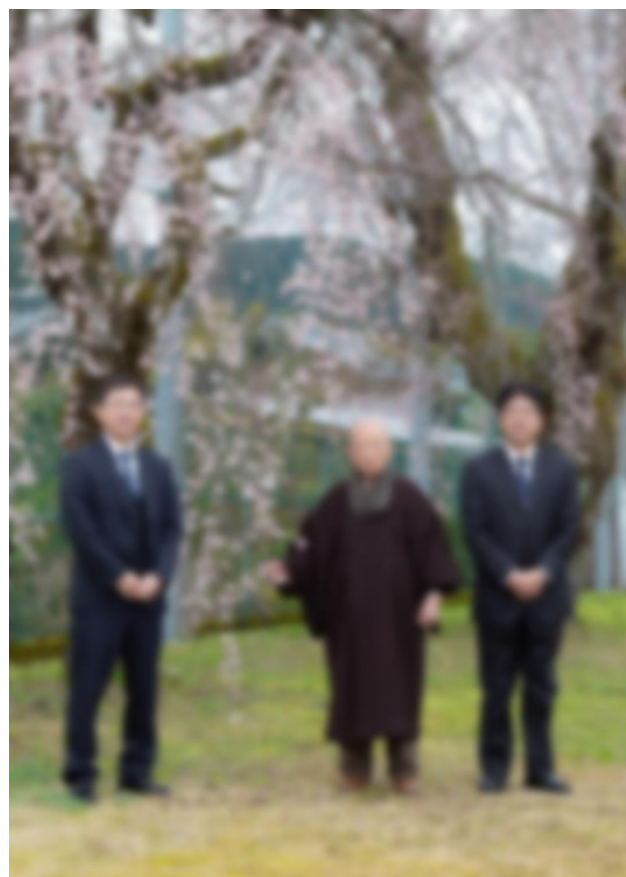
終戦を迎えるとともに動員解除となり、昭和20年2月の卒業式は証書受領のみの簡素に終わり、学校生活の終わりでした。

昭和45年同窓会で集った時、坂下町で将来を悩んだ日、上級学校受験勉強で苦しんだ日などの思い出を語り合う内に、平和の記念として坂下町に奈良ゆかりの桜樹を植樹することを決意しました。「吉野古代桜」の稚木を運び、坂下町に植樹の希望を願い、昭和46年4月下旬、参加者20余名そろって坂下町を訪ねました。

植樹した桜は正に「平和の桜樹」です。



長い年月、学校を見守り、地域の方々が愛でてきた桜に、こんな歴史があったことは、お会いするまで知るよしもありませんでした。出会いに感謝しています。これからも、美しく咲き続け、学校や地域の平和を見守ってくれることでしょう。



坂下中学校長2年目を迎えました。令和7年度の出発にあたり、「『通って良かった』と思える学校にしよう」と生徒に話しました。生徒とともに教職員一丸となって頑張ります。保護者の皆様、地域の皆様、本年度も本校の教育活動に、ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

校長 久野 智治